

第6回 有田町立小中学校適正規模適正配置審議会

1. 【開会】

事務局：皆さんこんばんは。もう今日で11月終わりますけれども、ちょっと寒い日々が続くようになりました。今日でこの適正審議会、6回目を数えるようになりまして、後半に入ってきたのかなというふうに思います。それではただ今から、第6回有田町立小中学校適正規模適正配置審議会を始めさせて頂きたいと思います。最初に、栗山教育長より挨拶を頂きたいと思います。

2. 【教育長挨拶】

教育長：皆さんこんばんは。夜分にお集まり頂きましてありがとうございます。課長から話がありましたように、今日で11月も終わって明日から師走ということで、なにかとせわしい感じがするところではありますが、今日もご審議の方よろしくお願ひしたいと思います。今日は私、インフルエンザの予防接種をしてきました。インフルエンザ流行っているようですので皆様方、ご自愛頂ければと思っております。前回のグループでの話し合いでは、どちらのグループも「中学校を統合した方が良いのではないか」という意見でまとまったように思っております。オール有田という考え方に立って、それにまちづくりの方向性として、中学校の統合が良いのではないかという話もあったというふうに思っております。多くの方がうなずいて頂いていたように私は見させて頂きました。その第5回の審議会の次の日に、多久市の教育長と話をする機会がありましたけど、ご存じのように、多久市は市ですけども、有田町よりも人口が少ない状況です。10年ぐらい前でしようか、多久市が3つの義務教育学校に統合しました。3つの義務教育学校の後期課程というところがいわゆる中学校になるわけですが、その3つの中学校で、生徒数が合わせて450名ぐらいだそうです。東部校というのが1つあります。そこが114人で、中部校というのが一番多くて254名、西溪校というのが84名ということです。ちなみに有田町は2校合わせて500人ぐらいの中学生が在籍しているところでございますが、そういう状況ですので、多久市の方が、クラス数が非常に少なく、正規の教員も配置するような形が取れない教科もあるということで、非常勤対応という形でやっている教科も数多く出てきているという状況だそうです。そういう状況ですけど、義務教育学校に再編してまだそんなに年数が経っていないので、また統合とかですね、それは今の状況では難しいという話がありました。そういう話を聞けば、統合とかそういうことについては非常によく考えながら進めなければいけないところがあると思ったところでもあります。皆

様方にはご審議をこれまでもしっかりとして頂きましたし、これからもお願いしたいと思っております。今回で6回目になりますので、先ほど後半という話がありましたが、私は終盤というところではないのかなという気もしております。今日は答申の草案みたいなものが提示されると思いますので、しっかり確認をして検討をして頂ければということで、こういう席になっているのかなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局：それでは、3番目の議事に早速入っていきたいと思います。議事の進行につきましては、中島会長様にお願いしたいと思います。

3. 【議事】

中島会長：皆さんこんばんは。これまで非常に暑い暑いと言っていたのが、急に夏から冬へと、秋はどこに行ったのかと言わないといけなような天気になってまいりました。しかも明日から師走になるということで、皆様方も非常にお忙しいところだろうと思います。今日は答申の草案を提示してございますので、それについてご検討を頂きたいと思います。よろしくお願いいたします。それでは審議会の答申の草案について、事務局から説明をお願いします。

事務局：皆さん夕方方の時間にお集まり頂いてありがとうございます。お疲れさまです。先日、答申書の草案という形で皆様に事前に送付させて頂きましたけれども、ご確認頂いたでしょうか。こちらの答申草案について説明させて頂きます。今まで5回審議会をしてきましたけど、そちらの方で出てきた意見を、文書という形でこちらの方にまとめて『答申書〔草案〕』という形で作っております。第1章が「小中学校をめぐる現状と課題」。第2章で「適正規模・適正配置のあり方」、基本的な考え方ですね。第3章で「適正化を実施していくにあたって配慮すべき事項」。委員の皆様から出てきた意見ご要望などもここに書いております。第1章「町立小中学校をめぐる現状と課題」こちらにつきましては、審議会の時に提示していた資料とかを、もう一度改めて提示しているような形になります。「町の人口と将来推計」、「学校の児童生徒数の現状と見込み」、「学校規模」学級数の現状、「学校の小規模化による課題」メリット・デメリット。あと「学校施設の現状」老朽化の状況ですね。こういったところをこちらの方に記載しております。ここについては、説明は割愛させて頂きます。10ページから、第2章「町立小中学校の適正規模・適正配置のあり方」ということで、この審議会で適正規模・適正配置を検討するにあたって一番重視していること、「ここを重視して適正規模・適正配置の検討をしてきました」ということで、子どもを第一に考えることと、地域の実態と将来を見据えて議論すること、というふう

出しております。審議会の皆様にお話し合いして頂いた内容として、2. 「小中学校の適正規模について」皆様から出てきた意見の中で、「小中学校ともクラス替えができる規模があった方がよいね」というのと、中学校については「教職員数の問題もあるから、できれば9学級以上あった方がいいですね」という話があったので、こちらを踏まえまして11ページの上の四角ですね、望ましい学校規模として、「小学校は12から18学級」各学年2学級から3学級、「中学校については9学級から15学級」各学年3学級から5学級が望ましい学校規模ではないかということで記載しております。次の「小中学校適正配置について」、こちらについても審議会の中で通学距離の問題いろいろ出てきましたけれども、その中で話がありましたとおり、通学距離は小学校4km、中学校6kmが目安ですけれども、国の基準で「おおむね1時間以内を通学時間の目安にすることもできます」ということが書いてありますので、そちらの方を採用いたしまして、11ページの下の方の四角、「望ましい学校配置としては、小中学校とも通学時間がおおむね1時間を超えないよう考慮した配置とする。ただし、遠距離通学の児童生徒に関しては、交通手段確保を前提とする」。また低学年児童とかには特に1時間というのは負担が大きいので、「安全性を考慮して時間軽減、時間短縮を図る」という文言を入れて適正配置、望ましい学校配置というところで結論として上げております。12ページ「適正規模・適正配置を実現するための学校再編」という形になっておりますけれども。前回までの審議会の話の中で、教育長も最初に申し上げましたけど、オール有田ということで「中学校については、1つにすることもありではないか」という話がありましたので、そういったところを踏まえて、「本審議会では、小規模化かつ老朽化している学校の統合を基本として学校の再編を検討すべきという結論になりました」と書かせて頂きました。小中学校の適正規模適正配置に基づいて、老朽化した施設の学校再編を計画的に進めていくにあたっては、その下の黒い丸2つ、こちらの方を重視して行うということで、「小規模化による中学校の課題の解消」および「小規模化かつ老朽化している小学校の課題の解消」、こちらを重点に考えて学校再編に取り組んでいくと書いております。また、学校再編から少しずれますけど、「小学校については地域特性を活かした小規模校を残すことも選択肢の1つではないか」という意見がありましたので、そちらについて、「小規模校のあり方を検討する時には教育水準の維持向上を図って地域特性に合わせた特色のある学校づくりに取り組んでいく」。「将来、複式学級が見込まれる場合は、標準規模校への統合を検討することが望まれる」と書かせて頂いております。続いて第3章「適正化の実施にあたって配慮すべき事項」、意見要望のところですね。こちらについて、審議会の皆様から出てきた意見をできる限り拾い上げて記載しているつもりではご

ざいます。まず学校再編の進め方で、「保護者・地域住民に対しても丁寧に説明して理解や協力のもとで進める」ということ。またその時に「町として明確なビジョンをもって具体的な方針や施策を考えていくこと」。学校が担う役割としては、町の施設の複合化。こちら前回の審議会の時に意見が出ていたと思いますけど、「学習センターなどと一体化して町民の人が、子ども以外の人でも集える施設になるような複合化を検討してください」ということですね。「子どもの命を守るためにも学校が安全安心な場所として防災機能を持たせること」。その下に「強制されたものではなく子どもがそれぞれの個性に合わせた教育を受けて希望をもって明るく過ごせる場所に」。こちら第2回、最初のころの審議会に出てきた、この審議会の理念として「4つのL」という話がありましたけど、そちらを書かせて頂いております。3番目の「通学手段の確保」。先程の適正配置のところでも出てきましたけど、「遠距離通学になる児童生徒の地域において通学負担を軽減するための施策を取ることは必要です」ということですね。次のページで、4番目「子どもの心理面への配慮」として、学校再編で環境が大きく変わりますので、「子どものケアは十分にしてください」ということですね。また、その時に、「特別な支援を必要とする子どもについては、急な環境変化で混乱しないように特に配慮をする必要があります」ということ。5番目の「魅力ある学校づくり」。有田町はやきものの町ということで全国的に知られておりますけど、「小さな学校でも小規模ならでのメリットを生かして、他の校区からも希望をする児童を受け入れる形で、地域の特徴を生かした特色ある魅力ある教育を実現してほしい」ということ。また現在、町内6校全てコミュニティスクールになっておりますけれども、「コミュニティスクールの枠組みを生かして魅力ある学校づくりに取り組むこと」。そして、「子どもだけでなく地域の住民もそこに集まってくるような学校を目指してほしい」ということですね。こちら結構、今、県立中学校とかで外に出ていく子どもも多いですけど、「保護者の人に『絶対に地元の学校に通わせたい』と思ってもらえるような魅力ある学校づくりを考えて行ってほしい」ということ。そして6番目「学校の枠を超えた交流」というところで、小規模学校の課題として、子ども同士の切磋琢磨の機会の減少というのがありますけど、それを解消するために「学校の枠を超えて交流事業、合同授業、意見交換会なども積極的に行ってください」ということですね。また、その時には、審議会の中では「ICTを利用してオンライン上の合同授業」という話があったと思いますけど、そういったものだけではなくて、「実際に顔を合わせて行うリアルな交流もちゃんと重要視してくださいね」という意見が出ていましたので、そちらの方を書かせて頂いております。大体審議会に出てきた意見は、おおざっぱではありますけどおそらく拾えているのではないかと

思っております。「おわりに」はちょっと省略します。あと【資料編】につきましては、16ページ以降ありますけれども、こちらについても審議会の方でお示ししてきた資料を再掲しているような形になっております。答申書〔草案〕の説明は以上です。

中島会長：ありがとうございます。それではお気づきのところをどんどん出して頂いて。よろしくお願ひします。

委員A：小さな事かもしれませんが、草案の、表紙で、「適正規模『・』適正配置について」としてありますが、条例等については「・」なしで「適正規模適正配置」と。下の審議会の名称も「・」はないですが、ずっと目次なんかも見ていくと「・」があつたりなかつたりということで。あえて「・」を付けたのは「適正規模と適正配置それぞれをしっかりと検討していきます」と、そういう意図で「・」を付けてあるのかなとも思ったのですが。そこを整理した方がいいのかなと思ひまして、これは質問みたいな、意見みたいな。

事務局：そうですね、適正規模適正配置というところで「・」がないところにつきましては「適正規模適正配置審議会」とか、そういう固有名詞というか名称の時に「・」を抜いているような形です。基本的には適正規模と適正配置ということで、「・」があることが標準という形で記載しております。

中島会長：諮問書が「適正規模『及び』適正配置」となっておりますので、「及び」で。

事務局：はい。

委員B：すみません、今日はこの草案の文章見直しになりますか？

中島会長：内容の追加です。

委員B：これちょっと読みましたけど「ここを修正してほしい」とか言うのはなかなか難しい。この前、多分終わりに、教育長の方から「今度はもっとソフト面の話とか、要望を」ということで、要望、例えばこの分野のここは具体的に書いてとか。もう少しそういったのを出せるかなと思ひていましたけど、それはこの草案の中には出しにくいかなと。例えばそういった思ひがあった時に、今日はどこで言えばいいのかなと思ひるところがありますけど。

中島会長：言ひて頂ひて結構です。ここには出ませんが。

委員B：分かりました。ちょっと1つ思ひついたのが、町の施設の複合化。この前言われていたと思ひますけど。これも現状は建設費が、中学校1つ、小学校2つとかすると、建設費がかかるとか、そんな話でしたけど。同じような施設って結構町内見たらいろんなところたくさんありますし、例えば「図書館を学校と一緒にして図書館を交流スペースにしたらどうか」という話があったと

思いますけど。実際のところ、よく町民の方が旧有田の図書館にいるとか、なんかそういったことがよく上がっているかなと思いますけど。じゃあ実際に、そういったことはどこまで今日触れていいのかとかですね、ここをした時にどこまで建設費考えるのかとか、そういったところが町としてももう少し具体的にありようでしたらお出しして頂ければ助かります。

事務局：前回から学校と一緒に造る複合化施設のお話も出ておりますので、ここの辺りを今後本当に一緒に進めるのであれば、まちづくりの計画も必要になってくるのかなと思います。今回はそういったご意見も出しながら、これに具体的に載せるかどうかというところもありますけど、今のところこの表現で載せさせて頂いておりますけども。具体的などころにつきましては、また今後検討していくということにならざるを得ないのかなと思います。今回、そういう明確なことはなかなかカチっとは出せないかと思いますが、今日はここには書いてないようなところも含めて出して頂ければと思います。そういったところも含んでの、大きく包含した形での内容ということでご理解を頂ければと思います。

中島会長：財政課長もまちづくり課長もいらっしゃっているので、ご要望を出して頂く分については、検討する時には頭の片隅に置いて頂くと、だから仰った方がいいと思います。教育委員会で作るものですから、行政に「こうしてください」という部分はなかなか直接的には載せにくいと。

「検討してください」とは言えるけど。具体的に例えば「学校を造る時には複合施設にしてください」という言い方は、なかなかですね。だから「そういうことを検討してください」とか「も含めて検討してください」みたいな言い方は、要望としてできるかもしれません。

委員C：第1回からずっと疑問だった部分があったのですが。この、有田町立小中学校適正規模適正配置審議会の最後、とりまとめて提出した時の、有田町に対する行政の力ってどんなものなのかとか。強制力はないわけですよ。これで「答申できましたよ、じゃあこれを計画として有田が動きますよ」というわけではないと。意見として上げるというだけですか。

中島会長：教育委員会の方から「検討してください」という諮問があつているので「こういうふうにしたらどうですか」という方針を出すという形です。だから極端にいうと、「言ったけど何も聞いてもらえなかった」ということは、場合によっては有り得ますけど、それは教育委員会としては仰らないだろうから、この件に沿って行政を進めていかれるだろうということです。それで、教育委員会なので、この中ではいわゆる首長部局には直接的には言えないと。ただ「この場の中で『こういうことも検討してもらったらどうですか』というのは幾らでも言って頂いて結構です」ということです。それを教育委員会の方も行政も聞いておられるので、検討する時には言っ

て頂けるだろうということですね。よろしくお願いします。

委員D：自分はちょっと質問プラスという感じですけど。この草案を見ていた時に、「結局どういう結論が出たのか分かりにくいな」と思って。さっき、「はっきりとこうしてくださいとは言えない」みたいに言われていて、「中学校2校を1校に統合することが考えられます」みたいなのを小さく書いてあるだけなので、大きく、「こういうふうにした方が良いと思いました」と言って、その理由を下に書くとかなら分かりやすいかなと思いましたが。今書いてある感じだと「こういうふうにした方が良いと思います。例としてはこんな感じですかね」みたいな書き方に、ぱっと読んだ時には個人的に思ったので。結論が何なのか、私はぱっと見て分かりにくかったので、そういう書き方はどうかと思いました。

中島会長：具体的に書くやり方もあります。ただ、今学校が置かれている現状が、「今後児童生徒数が減ります」ということと、「校舎が老朽化しています」ということですね。そうすると、老朽化しているなら校舎を造らないといけない、建て替えないといけないですね。その時に、それぞれ今ある学校を新校舎に替えるやり方もあります。新しい学校として建て替えるやり方もあります。ただ将来的に、今のところの見込みでは子ども達が減っていきます。それじゃあここここをくっつけて、ここここはくっつけないでということを具体的に言ってもいいですけど。これはこの会議の中ですから、会議の結論として言って教育委員会にそれを上げると。極端にいうと、「全部そのまま残しておいてください」という言い方もあります。だけど教育委員会はそれで聞いてくれるだろうかということですね。だから、今のところの将来的な見込みのところ非常に曖昧な部分があるので、なかなか具体的に書きにくいところがあります。もう一方は、この間から話が出ている「有田町自身がどれだけ活性化していくか」。そうすると、今のところの児童生徒数はどんどん減っていきますよという見込みですけど、有田町が、「いやいやそれはさせませんよ、我々頑張って人口増やしますよ、企業も誘致しますよ、移住してくる人もどんどん増やしますよ」ということになると、今の見込みは全く壊れるわけですね。だからそこが非常に難しい。教育委員会で検討する時は「現状でどんどん減っていきますよ」という中で検討するしかない。だけど、先程言ったように、行政に要望は出せる。「新しく作るなら複合施設にしてください、そうすると町が活性化するじゃないですか」という物言いはできるということですね。だからちょっとオブラートに包んだ言い方になって申し訳ないですけど、そういうことです。

委員D：ちなみに、これは町民の人が見る用ではないということですね。見るためではなく、教育委員会の人に見てもらうためだけのものですか。

中島会長：町民に説明する時は使います。「協議検討しました。そして意見として教育委員会に答申しました」と。「もっと歯切れよく言いませんか」と言われるなら、もう少し中身をオブラートに包まないで直接的に「中学は統合します。小学校も西有田の小学校2つ統合します」と。しかし、それがいつですかと言われると困ります。「中学校はできるだけ早くします。しかし小学校はまだこれから先の話」とか。どの時点でやるかというところまで言い出すと、非常に難しい。だから「教育委員会の方で、統合の方向で検討してください」と書いておくと。

教育長：今月出ている広報には、第1回から第5回の審議会の抜粋みたいにはなっていますが、意見とかそういったものが出ております。そして議事録等もホームページには出しておりますので、なにもこれを隠すとかそういうことは考えておりません。広く、どうせ今後町民説明とか、考えていくことになると思いますので、そこはちゃんとオープンにしながら進めていくという姿勢は持っているつもりです。今回は、原案とかでもなく草案ですので、たくさん意見をして頂いて、「いやこれはわかりにくい」とかですね、そういうことも、もしあれば言って頂いて。私たちとしては、第2章のところがある程度の結論めいたもの、第3章のところをそれに少し補足するような形で出しているという感じになるのかなとは思っております。先ほど複合化についてご意見ありましたけど、そういったものも3章あたりに含まれていくのかなとか、そういうことは少し考えられると思っております。そもそも論から言って、教育委員会が諮問を出していますので、それに対して答えて頂くという形で答申を私たちが頂きますので、それをしっかり尊重しなければいけないと、そういうことは思っておりますし、また、議会の皆さん方とも話し合い等、協議をしていくということになると思いますが、議長さん、副議長さんもここに出席されておりますので、この雰囲気は感じ取って頂いていると思っておりますので、そういったところでの話し合いもしていきますし、いろんな場での協議というものを生かしながらより良い学校づくりを進めていくと、そういう考えを持っているところです。

委員E：ずっとこの会合の中で、確かに各校の現状とかいろいろ見させて頂いて、西地区の小学校2校、中学校1校、やっぱり自分なりに見た中でも、なるべく早めにどうかしてやらないといけないという気持ちは今でも持っております。それ以前の問題で、やはり子どもたちが現状どんどん減っていますけど。流れの中で、例えば一例ですけど、私は次女の仕事の関係の中で、別居してどうこうもありましたから、できたら有田に住んで、長男は中学生ですけど、高校進学は将来的に有工に。2番目の孫は今保育園の年長で来年小学校ですけど、有田に引っ越してきてくれないかと話をしたところ、ようやく来年の1月の後に有田に戻ってくるようになりました。やはり学

校もそうですけど、まず子どもの数を増やすということを、我々審議会のメンバーだけでなく、各家庭のいろんな皆さんたち、それから伊万里のサムコは今度工場拡張になると、大幅な、2,000名ぐらいかな、あくまでも噂ですから数が間違っていたらすみません、話を聞いておりました、地元採用はないと。そこら辺もちょっと聞いたら、熊本の工場移転に伴い、伊万里に連れてくるという話でしたけど。そういうものでもいわゆる有田に定着させるとか、そういう構図を。それからずっと長年の夢でしたけど、有田の方の企業誘致、そこら辺かれこれで、やはり有田に住んで頂けるような雰囲気づくり、これがあれば、それこそ審議会で言うように学校の統廃合とか、これから人口が増えた場合には2万人以上住むようになったら、何も統廃合する必要はないのではないかという気持ちがあつて。私が今日の審議会の中で言いたかったのは、まず人口を増やすための知恵というものを皆さんに考えて頂いて。本当にPTAの皆さんの意見も前回から聞いていたら、例えば「西地区の方で中学校1校と小学校2校合わせての3校統合」というような話聞いて、素晴らしい夢をもっておられるなと思つて。それはそれでやっぱり期待になりました。私の中では1人でも2人でも子どもを、人口を増やすという言い方悪いですけど、子どもを増やすというのを現実策、もっとやりやすくなるのではないかなというところがありまして、そういう努力をすれば結果的にもっと良い学校づくりができるのではないかなと。本当私は、上の小学校の保護者さんは今ご存じないでしょうが、運動会も同じメンバーで走るのではなくて、下の小学校の人たちと一緒に走らせたいとか、そういうことを現実的にまだ思っております。だから教育は有田小学校、中部小学校それぞれ考えておりますけど、文化活動とか運動会とかは一緒にできないかという流れはありましたけども。その時点では「そういうことはできません」という返事を頂いておりましたけど、これから先こういう審議会があれば何かまた夢が出てくるのではないかなと思っております。

中島会長：いつも言っていますけど、町の活性を第一に考えて、みんなが来たがるようなまちづくりと言いますか。今NHKで『いいいじゅー!!!』という番組があつていますが、若い人たちが昔の廃園になったようなところにいろんな新しい旅館だったり商店だったり、そういうのを計画してどんどん移住してくる。そして住んでいる人はネットで仕事をしていると、そういう状況で。今後、日本の社会もどんどん変わっていきますので、そういうことも頭に入れながら活性化を図って頂くと、また違った形になるかなと思っております。途中で皆さん方「暗いじゃないか」という話があつていましたから、ぜひ夢を語れるようになっていければなど。ただ、学校の適正化については今の状態でいかないといけない部分がありますので、どうしても子どもの減少という

ころに焦点を置いて検討せざるを得ないというところがあります。しかしながら今おっしゃったように、夢を持ちながら子どもたちのことを考えるというのは非常に大事なことだと思っておりますので皆さんよろしく申し上げます。

委員A：その「まちづくりの夢も語っていかねばいけない」ということを、第3章に何らかの形で盛り込んでいたらなと思ひながら私もお意見をお聞きしておりました。それからこの答申というものの性質についてですね、論議が先程なされましたけれども。この審議会で、今まで5回いろんな論議を積み重ねてきてここに草案が出来ているわけですけど。12ページの(1)学校再編の進め方。ここが結論の部分になるかと思いますが、先程「結論が非常に分かりにくい」というご意見ありましたけど。この答申の文書として、事務局の方で非常によく考えて作ってくださっていると思ひますけど。ちょっと謙虚すぎるという感じを私は持つておまして、例えば黒丸の1つ目「小規模化による中学校の課題を解消する」というそのくだりで。最後の文で言うと、「現在町に2校ある中学校を1校に統合することが考えられます」という表現ですが。いかにも、「客観的に見たらそんなことも考えられる」という自然発生的な表現になっているかと思うのですが、もっとしっかりと、この審議会で皆さん「中学校は統合した方がいい」という意見が非常に強かったので、はっきりと「統合することがふさわしいと考えます」という、明確に、ぼかさずに表現した方が結論としても分かりやすいし、レイアウトの工夫でも、結論の部分を四角で囲むとか、そういうこともした方がいいのかなと。これをホームページ等で公開する時には、町民の皆さんが分かりやすく捉えられるようにすることも必要かなと思ひております。あとぼかしという点で言うと、その下の「小規模かつ老朽化している小学校の課題を解消する」という部分で「町内の小学校で小規模で老朽化が進んでいる学校もあります」という、この「学校もあります」というと、「今沢山ある中で、中にはこういう学校もある」という、例外的な感じに受け取れるので。そうじゃなくて4校のうち2校が、曲川と大山が非常に古いという事実がしっかりと、委員の皆さんも視察に行つて確認したところですけど。はっきり2校、学校名まで挙げても別に問題ないかと思ひております。要するに明瞭に示したほうがいいのではないかということです。あとですね、次のページでも、「第3章適正化の実施にあつて配慮すべき事項」の3番の「通学手段の確保」の表現の仕方、2行目から読みますと、「公共交通機関の運賃の補助やスクールバス送迎などの施策を取ることが必要だと思ひられます」という、非常にこれも謙虚な表現ですけど。この委員会でも通学というのは非常に大きな問題だということで、「是非とも通学に関しての問題解消についてはしっかりと考えて頂きたい」という意見もございましたので、「必要だと

思われます」というと、「審議会でもそんな強い意見じゃなかったのかな」と、そんなふうを受け取られてしまいますので、言うべきことはきちんと、審議会でこんな意見が出ましたということで、明確に表現した方が良いのではないかと思ったところでした。以上です。

中島会長：ありがとうございます。

委員B：第2章の4の(2)のところ、よく上がってきた老朽化、それから中学校の問題、それと「有田地区の校区を変えてはどうか」という意見もあったと思いますが、そういったところも、もう少し言葉にしてもいいのかなと思いました。それと第3章のところ「通学手段の確保」があります。中学校1つにするとか、小学校も校区が広がるから、通学路の確保というのは、外灯含めて、そういったところも書いて頂ければより安全な交通にはなるかなと思います。14ページの「学校の枠を超えた交流」というところ。これがICTの活用のところとリアルの交流、一緒に書いてありますけど、できれば別々に書いてもいいかなと。ICTはICTのところ、それから顔を合わせた交流というところはその分の書き方でしておいた方が。どちらも重要な事だと思うので、2つに分けて書いた方がいいかと思いました。以上です。

委員F：すみません、質問とかではないですけど。将来的に結局統合してしまうにしても、今から通っていくお子さんの保護者さんたちに対しての、意見とか言うことを聞く機会というのは教育委員会で考えられていますか。というのが統合されるのは数年先、今小学校通っている方達が今後中学、高校となったころだと思います。ですから、逆に言ったら私たちはちょっと関係ない世代になってくると思います。そうなった時に、今若い子達が、今から小学校に通う、中学校に行く、その世代の親御さんたちが実際に統合するとなった時にどういったところが心配なのか、そういったところを聞く、意見というところを早めに確認しておくことによっても、今後生かす場が。「こういう意見が出ているからこういうことを改善できる、こういうことを考えています、だから統合しても大丈夫ですよ」とか、そういったところにもつながってくるのかなと思いますけど、それがやっぱり将来「西有田に残りたい」「西中に行かせる」と。そういった時に、例えば先程の話の中で、通学路ありましたが、実際近い遠いって正直関係ないです。なぜかって、今ほぼほぼ親御さんが送迎に行っているという環境です。武雄高校、武雄中学校、青陵中学校に行く子どもというのは、うちもそうだったですけど、結局有田駅まで、朝の7時ぐらまで電車に乗せるために、必ずどんな場所からでも行っています。だから、通学に関してはほぼほぼ関係ないと思います。だからこそ「どういう中学校にしたいか」というところが。例えば「西有田中学校、有田中学校がこういう学校だからこそ中学校に来てください」「通わせたい」という、大きな目

標として「うちの学校はこうだよ」と謳えるような環境になれば、逆に本当「西中に行きたい、有中に行きたいから伊万里でも来ます」とそういうところにもなると。逆に若い方達の意見というの、今からは必要じゃないのかなと思っています。

事務局：貴重なご意見ありがとうございました。今後のことにつきましては、まだ今後の話、具体的にはまだ決めておりませんが、具体的に進めていく中で、どういうものが計画になるのかなとは思いますが、そういったものを立てる中で町民の皆様方のご意見、現在も若い方、我々よりもっと若い方、今から小学校とか中学校になられる世代もありますので、そういった年代の方も含めたところで、いろんな年代の町民の皆様からのご意見というのを何らかの形で収集するのは、そのすべてのご意見を反映できるかは分かりませんが、そういったご意見を拾い上げる機会というのは設ける必要があるのかなと思います。いろんなご意見頂きましたので、今後進める時の参考にさせて頂きたいと思います。ありがとうございます。

中島会長：答申を受けて、教育委員会がこういうふうに決定しようと思っているとなれば、そう決められれば、それを受けて地域住民への説明会ないし、ホームページで提示するなり、何らかの形でせざるをえないだろうと思います。是非、そういう形で教育委員会には開催して頂きたい。

教育長：実はこの審議会のメンバーの構成ですね、20人出て頂いておりますが、今回の審議会で答申を頂くにあたっては、現在、子どもさんを学校にやっておられる方々から現実的に「今こんなことが問題である」とか、そういったものをしっかりと出して頂きたいという意図は確かにあります。それとコミュニティスクールの、学校運営協議会の代表の方4名出て頂いておりますが、地域からあるいは実際学校の現場を見ながら「こういったところはもう少し改善した方が良いのではないか」とかですね、そういう意味合いのご意見を頂きたいという意図があってこのメンバーに出て来て頂いておりますので、先程仰って頂きましたけど、今後の流れとしては今会長さんも仰られましたように、「こういう方向でどうだろうか」というのを私たちは考えた時には、幅広くアンケートを採ったり、あるいは出向いたりとかですね、そういう形での意見を聞く機会というのは設けなければいけないとは認識をしておりますので、そこはご理解を頂ければというふうに思います。

委員G：ちょっと発言がしづらいですけど、この草案を頂いて、読ませて頂いて、何を答えるのが正解かちょっとよく分からないというのが正直ありますけど。細かくはわからないので、全体の印象だけを言いたいと思います。読むと多分ふんわり、「中学校は統合する方向、その他小学校が適正なバランスで統合していく」という話になると思いますけど。その統合が、みんなでこうや

って一生懸命考えた、より良い町になるように考えた、その統合の方向が呼び水になって、さらに人口が減るとか、そういうことが起こったりするリスクはないのかなど。何かこう、ただ老朽化とか、人口が減るといふだけのそういう表面的な部分だけで統合の話を進めていくと、ますます「この町で子どもを育てたい」という世代の人たちにとって魅力のないバランスになったりしないかとか。それがないように皆さん考えると思いますけど、もっと中身の部分をすごい慎重に考えて、さっき仰ったように魅力ある学校づくりとかしないと、さらに減る可能性もないこともないのではないかなというのもちよっと考えていました。別に私は統合に反対とかではないですし、賛成でもないというか、多分これから考えられて良い方向になっていくのは間違いないと思いますけど。表面だけではなくて、中身が凄く大事になっているというか、今後の、多分町の将来とか未来を決めるぐらい大きい話になると思うので、町の皆さんの意見とか含めた上ですごい慎重に進めるべき話ではないかなというのは、ちょっと印象として思いました。これ、逆もあると思います。この統合がプラスになって「この町で住みたい」とか「ほかの町からも来たい」となりえる、そのように持っていくのが目的だと思いますけど、それを考えるのが、統合がどうかというか、本当にその中身がすごい重要かなと、印象で思いました。

中島会長：ありがとうございました。

委員F：先ほど言ってくれたように、前もこの場で「ネガティブな考えになってしまっているのでポジティブに考えましょう」という話の中で、今後どうやっていくのがいいのかなとなった時に、やっぱり将来学校に行かせる若い方達の意見を先に吸い上げてから「こういう意見も出ていますが、皆さんどうですか」という持っていく方というのもできたのではないかなと思もしますけど。そこで、今度、沖縄にジャングリア施設ができるみたいに、こういう施設を造りますと。中学校でも「こういう中学校を造りたいと思います。皆さん西有田に来ませんか、有田に来ませんか」というアピールも持っていけるのかなと思います。もちろん「こういう考え方の中で統合しなければいけない。有田に1つの中学校を造る、その中学校はこういう魅力的な中学校にしようと思っています。だから皆さんも有田に住みませんか」と、そういう持っていく方というのはもちろん難しいとは思いますが、こういうポジティブな意見を持ち寄って、もちろんそれが100%できるわけじゃないし「ただあんたたちが言っているだけでしょう」となるかもしれないですけど、そういう中学校ができますよっていうのを、「絶対に現状から言えば統合する」という方向で進むのであれば、そういう「未来はこういう中学校ができますよ」という明るいところをぼんぼん出していった方が、結局僕はいいいのかなとは思いますが。

委員H：13ページが一番上に「小中学校の適正規模適正配置を進めるにあたって、より良い学校再編となるよう」と書いてありますけど、学校再編にも悪い学校再編と良い学校再編があるというのが前提にあって考えているのか、具体的に悪い学校再編というものはどういうものかというところをお聞きしたいと思います。

事務局：ちょっとお答えになるかどうかわかりませんが、より良い学校再編ということで、この答申の中でも述べておりますけど、まずは「子どもたちにとってより良い学校づくり」というところを上げております。あと、地域社会、地域にとってもより良い学校になるような、そういったものであろうかなと思います。この答申案の中に、いろいろとちりばめ過ぎているところもありますけど、そういったところを目指しながらより良い学校ということで進めていきたいと思いません。ですので、今後まだ時代も変わっていきますけど、今現在で考えられるところでのより良い学校づくりというものを根底に置きながら考えたいと思います。すみません、答えになってないかも分かりませんが。

委員E：いつもここに区長会の代表の方もおりまして、いろいろお話していますけど、やはり先程お話お聞きしますけど、どうしても「ネガティブな意見が多くて暗い雰囲気」と皆さん言われますけど、もう明るくするために、とにかくまずは、私も東地区と西地区と見ていて、学校の建物自体を見ていると、どうしても西地区の中学校、小学校が老朽化に伴い見劣りする部分があります。それでこの学校の建築とか再編とか、そこら辺は絶対ありきというふうに考えて先程からお話ししましたけど「どうにかして人口を増やすための努力をしましょうよ」と。それでとにかく「新しい校舎を建てるような気持ちで話し合いを進めていきましょう」と。そういう感じで、何かこの文章だけ見ていたら、どうしても先程言われたように、いわゆる暗い雰囲気の方に話が持っていくがちですけど、これを明るくするためにはそれぞれのこれから先の目標、それからやはり今日議員さんがおみえですから、これからの町の流れの中も見えてみたりお聞きしたりして何らかの。特に西地区というのはものすごく自然がたくさんありますけど、土地もたくさんあります。何かできないものだろうか、そういうところもありますけど、子どもたちを大切にしたいというのは一途に我々のように70近い人間になると本当に孫がかわいくて「孫にはどうにかしてやらないといかん」という気持ちがありますから、「小学校はどうにかしてやらないといけない、中学校まではしゃかりきで頑張っってやっていかないと」ということで、自分は有田中学校の役員をさせてもらいましたけど、本当この5～6年、有田中学校に関わってもものすごくよかったと思っています。中学校自体がものすごく、より良く変わると思います。それは本当、校長先生、先生、生徒

はもちろんのこと、僕はその保護者、PTA会長も含めて、保護者全員が努力された結果が今の有田中学校だと。ちょっと言うては悪いですけど「青陵中学校には負けない」というのが私の自負なものですから、「有田中学校はものすごく良くなった」ということをまず皆さんに、毎回ですけどもご説明したいのと、やっぱり本当、笑い話というか明るい雰囲気になれるような、全ての小学校も、「有田小学校今レベル高いよ、中部小学校良いよ」、同じように「曲川小学校、大山小学校、こんなに変わったよ」という感じで、そういうきっかけというのできるのではないかなと思ながら。この文章に沿って追っていると、皆さんの意見を聞いていると本当にネガティブな意見というか、そういう感じになるように落ち込みがちですけど、みんなで「こうすれば良くなるのではないかな」という意見を出して頂ければ、それに対して本当、議長さんはじめ、議員さんだけじゃなくて。ここの中に文章に載せるぐらいだと思いますけど、話し合いとしてはもっといい方向に明るくなるのではないかなと。とにかく私はもう建築はありきと思っていますので、統廃合に関してはこれから先、教育委員会とか町の調整される方にお任せするべきかと思えますけど、まず学校自体、子どもたち自体はどうにか良くしてやらないといけないかなというのは切たる希望です。私は有田の学校、全て大好きです。子どもも、今送迎でお迎え行っていますけど、大山小学校に行こうと、中部小学校、有田小学校に行こうと、どこでも子どもは、よその子どもかわいくてたまらないです。私に「おじちゃん大好き」とか言われると、もう涙の出るほど嬉しいです。そういう子どもが多いものですから、関わってよかったというのは、今見守り隊をしていても楽しいし、子どもの送迎をしていても楽しいし、子どもに関わるという、おじいちゃんおばあちゃんにはこれほど良いことかと思っていますので、子どもを大切にするためには本当に、明るい意見が出ればこの約2時間の話し合いでももっと健全にできるのではないかなという気持ちでありますし。私は前回からPTAの役員さんの皆さんの意見をお聞きしてから、「ああ私たちの子供世代もなかなか良い意見を持っているな」という気持ちでお聞きしましたし、これから先どうなるか、悪くなるかって、景気も有田焼も、よもやこういう不景気が来ると思っていますけど、やっぱり学校づくりも、人さえ増えれば必ずもっと良いことができると思いますので、そういう面で私は自分が生きている限り有田地区には協力していきたいし、特に自分が行った中部小学校、それから有田中学校、ここに関しては死ぬまで絶対自分は協力するぞという気持ちで、明るくいきたいと思っています。すみません、個人的な意見です。

委員Ⅰ：私はこの草案とか答申は優先順位が付くと思っていました。「まずこれが第一優先で、次が第二優先」とか。今言われましたけど、やっぱり西有田の小学校はちょっとひどいのではないかな

などと思います。伊万里市内とか、小学校も中学校もどんどん新しくなっています。その中で、もう50年近くの学校がそのまま建っていてすぐ工事があるわけでもなく。「規模をまず合わせよう」というのもいいですけど。5ページの方の中学校が、これから12年後、2035年に有田中186人、西有田中145人ですから、これはこれで実は一番いい、学力も伸びそうな人数です。以前私言ったと思いますけど、統合した時は大体荒れて、成績がぐんと落ちます。実は今、伊万里市内とか周辺で学力が高い学校は、中学校で大体100名ぐらいの学校です。有田中学校も、2年生が今一番少ないですけど、2年生の成績が一番良くて、伊万里市と戦っても上位です。だから、人数を優先するよりも、西有田地区の学校の老朽化をまずどうにかしなくてはいけないかなという気がしています。もし自分が親だったら、大山小と曲川小、どうかなと思います。それから西中に行くわけですけど、先の中学校もそんな感じですから、優先順位で言うならまず西有田地区の小学校をどうにかしてあげたいというのが私の一番の考えで。その次に中学校も考えられますけど、あまりにも他地区と差が開きすぎているのではないかなという意見は持っております。

中島会長：いろんなご意見が出てきました。ここの場の結論が12ページのとりあえず黒丸の2つだと思いますので、そこを例えば囲みにして、「2校ある中学校を1校に統合すること」「小学校については統合して新設すること」という囲みにして、そしてその下に「統合を契機に他に類例のないような施設、それから教育内容を十分に検討してください」とその下に入れると。とにかく「他のところに無いような立派な施設を作ってください」ということと「教育内容を充実させてください」ということを入れるということで、皆さんの結論にしたらどうかなと思いますがいかがでしょうか。ちょっと分かりにくいというご意見もありましたので、もうはっきりと「中学校を統合する、小学校2校を統合する」というのをそこに入れるということで。「ただざらにあるものではだめだよ」ということをそこに付け加えるということでよろしいでしょうか。あと、いくら皆さんから出てきたご意見を元に少し修正を、追加をさせて頂ければと思います。まだ言い足りない方がいらっしゃれば。一旦、こらでご意見を締め切ってよろしいでしょうか。

委員G：答申というか、仰られた方向でいいですけど、先ほどの話を聞いていると、学力が伸びているのは少ない学校で、2035年の西中、有中の規模ぐらいがちょうどいいという話を聞いてしまうと、残したほうが親世代はそこに通わせたいのではないかなと。荒れた大きい学校に通わせるより、平和な、というか、のんびりした、でも学力は高いという学校に通わせたくるのではないかなと、すみません、最後に思ってしまったけど。別に反対ではないです。

中島会長：数が多かったら必ず荒れるわけではないので。そこは教育内容で、そして先生方の熱意で

勝負ということだろうと思います。人数が少なくなると子どもに目が届きやすいという利点があるので、そういうところはあるかもしれません。ただほかの地域の例を見てみますと、小規模校で、非常にどんどん伸びると、でも地元には残らないと。地域以外の学校に行ってしまうと、先生たちの努力が直接返ってこないという地区もあります。有田地区がそうなるとは思いませんけど、そういうことはありますので、必ずしも統合したら悪くなるということではないと。今までの有田地区の話を知ると、「非常に子どもが純粋で、先生の言うことも地域の人たちのこともよく聞く」ということなので、大丈夫かなと。私、外から見るとはそう思いました。それで、今日の話聞きながら、そしてこの草案を見ながら、いろいろご意見がまだあられるかもしれませんので、お気づきの点がございましたら、12月21日ぐらいまでに、次回の予定が12月21日になっておりますけど、師走は皆さん方お忙しいでしょうから、集まって議論をするというのもあれですので、ご意見がございましたら12月21日までに事務局、学校教育課までご連絡を頂ければと思います。「ここはこういうふうに変えられないか」「こういうことを付け加えられないか」ということについて、ぜひ忌憚のないご意見をお寄せ頂ければと思います。よろしいですか。あと最後に一言仰られるのは、今年最後ですから。

委員F：12月はなしですか。

中島会長：12月は、した方がよければ。12月21日に予定はされています。そこでみんなで顔を合わせて喋りたいということであれば、予定通りでいいですか。

委員F：今日の話で言ったら全然まとまってない感じがします。足していこうかぐらいの感じしかないなど。第9回の時までには、多分答申を出しきれないのではないかなと。

中島会長：それでは次回、予定通り21日でよろしいですか。

委員B：これをふくらまして考えでしょ。

中島会長：ふくらましもあるし、もちろん削りもあります。

委員F：削るところってないですね。

中島会長：基本的にはないと思います。皆さんのご意見を入れ込んだり、それから表現が少し柔らかめに入っていますので直したり。そしたら次回21日開催するというので、先程申し上げたように、事務局にその開催までに、ご連絡頂ければ。

教育長：11日ぐらいまででいいですか。いただいたものを資料にするとか、いろいろありますので。

中島会長：それでは今、事務局の方から12月11日までにご連絡くださいということです。10日ばかりしかありませんけれども、今日、こういうところを入れてほしいということも決めて、検討して、

21日に出したいと思います。

事務局：今日は長時間ご審議頂きましてありがとうございます。いろんなご意見が出て、この草案をもっと磨き上げていくということになるかなと思います。次回の開催を12月21日に予定しております。先程会長さんの方から「意見がございましたら11日ぐらいまで」ということで、お出し頂きたいと思いますが、できれば早めに頂ければと思います。これをまとめて再度皆様方にお送りする必要があるかなと思いますので、それが間に合うか分かりませんが、なるべくまとめたものを再度お送りさせて頂いて、21日前には再度それを見て頂いて、次回の会に臨んで頂ければと思っているところでございます。それではこれで第6回目の有田町立小中学校適正規模適正配置審議会を終了させて頂きたいと思います。また次回よろしく願いいたします。

【終了】